

西国三十三霊場巡りマラニック

第十六番 音羽山 清水寺

十九年十一月九日

フル百回衆走会

593

武藤 翔峰

大和の国（今の奈良県）子島寺の僧延鎮上人が夢に見た観音のお告げにより、音羽の滝を探し当て、宝亀9年（778年）にここに庵を結んだのが清水寺の創始と伝えられている。延暦17年（798年）のある日、延鎮は獅をしていた坂上田村麻呂に出会うが、その時延鎮は彼に殺生を戒めた。これを契機として坂上田村麻呂は延鎮に帰依したという。延暦24年（805年）に勅により坂上田村麻呂は寺地を賜り、私費で仏殿を建立し、寺域を整えたとされている。弘仁元年（810年）には嵯峨天皇の勅願を得て、国家鎮護の道場になったといわれている。宗派は、北法相宗（大本山）本尊は、十一面千手観世音菩薩、開基は、延鎮上人。『清水の舞台から飛び降りたつもりで・・・』という言葉で知られる、清水寺で最も有名なスポットは本堂の舞台であろう。本尊は秘仏であり、通常は直接拝観できないが、33年ごとに開扉される。

